

サッカーの活動における 暴力根絶に向けて

1 暴力根絶相談窓口

日本サッカー協会(JFA)では、サッカーの活動現場における暴力行為等の早期発見・是正を目的に、2013年6月24日に「暴力根絶相談窓口」を設置しました。約半年間の窓口への相談内容や対応状況について、以下にご報告します。

(1) 通報件数

2013年12月現在で、窓口への相談件数は60件です。この中には、すでに対応が完了した事案、対応中の事案、情報が少なく対応できない事案等々があります。相談内容は、直接的暴力行為、暴言・威嚇行為、チームの問題(登録関係、保護者との関係等)、指導者と審判の問題など多岐にわたっています。

(2) 4種年代の暴力行為等

相談事案の中で最も多いカテゴリーは4種年代です。指導者による暴力行為や暴言・威嚇などに関する相談が多く寄せられています。子どもが適応障害になったり、サッカーに対する意欲を失ったり、最終的にはチームを辞めざるを得なかったり、あるいは言い出せずおびえながら所属していたりという現状があります。指導者の行為や発言、行動が、暴力行為、暴言・威嚇等として捉えられていることが現状であることも相談内容からうかがえます。

(3) 対応

窓口への通報連絡のうち、3分の2は匿名での通報です。情報が少ない中での対応の難しさはありますが、通報内容の事実確認に努めています。通報内容だけでは一方的な情報ですので、当事者および関係者への聞き取り調査を都道府県サッカー協会(FA)を通じて実施し、事実関係を明らかにすべく努力しています。通報者に不利益が被らないように最大限の配慮をしながら進める必要もあり、慎重に、時間をかけて実施しているケースが大半となっています。

相談窓口では、電話以外にFAXでも通報を受け付けることが可能となっています。暴力行

為の早期発見・是正のためにも、できる限り詳細な情報をいただきたいと考えています。

指導者の皆さんには、これまで同様に情熱と愛情を持ってサッカーの指導に携わっていただければと存じます。チーム内での問題や悩み事等があれば、身近の都道府県FA関係者やJFAへご相談ください。

2 ウェルフェアオフィサーの配置

JFAでは、サッカー界における暴力根絶に向け、「しない、させない、許さない」をキーワードに取り組んでいます。これまで指導者に対する資質向上のサポートを中心に取り組んできています(「しない」へのアプローチ)が、この問題には社会の意識、認識が大きく関わっています。指導者ばかりでなく、選手や役員、保護者をはじめ、関わるあらゆる人たちが、この問題に対して意識を高め、雰囲気や文化を変化させていく必要があります(「させない、許さない」)。そのためには、さまざまな方面から多角的に取り組み、より広く働き掛ける必要があると考えています。

「ウェルフェア」とは、幸福、快適な生活、福利等を意味します。サッカーやスポーツを楽しむ大前提として、子どもたちの安心・安全を守る担当者が「ウェルフェアオフィサー」です。

① 暴力根絶に関して一人一人がすべきこと

- ・暴力、暴言が不要であるという認識を確認すること。
- ・暴力、暴言は、連鎖、再生産されうるということを認識すること。それを断ち切る力となること。
- ・指導環境をオープンにすること。声を掛け合える、相談できる環境をつくること。

② 大会ウェルフェアオフィサーの目的

大会に配置されるウェルフェアオフィサーの趣旨は以下の通りです。各都道府県FAや大会で、すでに自主的に取り組んでいただいているところもあります。

・この大会では暴力根絶の問題に取り組むという意志表示。

・互いにフラクに声を掛け合える社会を目指しつつ、それを促進するために、その役割の人を配置し、内外にそれを明確にする(この人はそれを担当する人であり、気づいたことがあれば声を掛ける。何か気づいたことがあったら「この人に伝えれば良い」といった意味)。

- ・管理、監視、取り締り、処分をするのではなく、あくまでもサッカー仲間としての気づきを伝える。同じ言葉や態度でも不快に感じる人がいること、マイナスになりうること等。
- ・指導者から選手のみだけでなく、サッカーの試合に関わるあらゆる要素を対象とする(選手やベンチから審判に対して、選手同士、サポーター等々)。
- ・大会を通した啓発、情報発信を行う。

③ 高円宮杯第25回全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会

今大会では、JFA主催大会では初の取り組みとして、以下を実施しました。

- ・各試合に一人ずつウェルフェアオフィサーを配置する(JFAテクニカルスタディグループおよびナショナルトレセンコーチ、第3種大会部会員、大阪FA技術委員会関係者)。
- ・マネージャーズミーティングにおいて、両チームに趣旨を説明する。
- ・各試合終了後、両チームの監督に本部付近へ集合していただき、簡潔に試合に関してのテクニカル面の講評をすると同時に、暴力根絶の観点から気づきがあれば伝え、意見交換を行う。
- ・重大とみなされる案件があった場合は別途対応する。
- ・上記に併せて、来場者にもインフォメーションをし、趣旨のプロモーションをする。

3年間の集大成であり、トーナメント形式の大会の中で、試合終了後に両チームの監督に時間をとっていただくことの難しさはありましたが、指導者仲間としてのスタンスで簡潔にお話をさせていただきました。今後いろいろなやり方を検討し、より日常への働き掛けにつながっていけるようにしたいと考えています。